

「ミニたまゆり2017」で広報活動



はまにゃんに集まる子供たち



迷彩服装でポーズを決めるちびっこ



背のうを背負い重さを体験



自衛隊ブースを取材する子供たち

神奈川地方協力本部溝の口募集案内所（所長 倉橋 准陸尉）は、2月11日（土）、12日（日）の両日、田園調布学園大学で開催された「ミニたまゆり2017」において、広報活動を実施した。

本イベントは、参加した子供たちが自分たちの力で町を運営する体験をさせるなど、地域の子どもたちのために、同大学が主催して毎年開催されているものである。

自衛隊ブースでは、災害派遣での自衛隊の活動パネルや自衛官が教育訓練時に背負う背のうの入れ組品の展示、制服や迷彩服の試着体験などを行った。特に、地本キャラクターの「はまにゃん」は、毎年子供たちに大人気で、「かわいい」と周りに集まり、一緒に記念撮影する親子の姿が途切れることがなかった。

また、ブースを訪れた子供新聞記者に、「自衛隊のお仕事は大変ですか」などのインタビューを受ける場面もあった。

溝の口募集案内所は、「今後も、地域に根付いたイベントに積極的に参加し、市民との触れ合いを通じて、自衛隊への理解を深めてもらえるよう努めていく」としている。

職場体験で「海上自衛隊への入隊意志固まる」

神奈川地本カレッジ防衛モニター 清水 丈太郎



「もやい結び」を教わる清水君
(写真手前)

2月13日（月）、カレッジ防衛モニターの活動として、海上自衛隊横須賀教育隊において、職場体験をした。

午前は、自衛官にとってすべての動作の基本となる基本教練を体験した。「右向け右」や「回れ右」などは、高校での体育の授業などの集団行動時の動作と同じであったが、「半ば右向け右」や「右へならえ」などは初めての体験であり、とても刺激的であった。その他にも、敬礼の仕方が陸自と海自とは異なっていることや、帽子を被っていない状態での敬礼の仕方など、自衛官ならば誰でも習得していることを教わった。

午後は、手旗訓練と結索訓練を体験した。当初手旗は、海を活動の場とするすべての人が、通信機器の使えない状況下での意思疎通を図る手段として使うものと思っていたが、指導教官から「手旗は海自や海保といった限られた組織でしか使わない」との説明を聴き驚いた。また説明後は、手旗を実際に体験させてもらうなど、とても新鮮に感じるものであった。

結果論では、教わった結び一つ一つの使用用途が多岐にわたることを知り、キャンプに行った際などには是非活用してみたいと思った。

体験終了後、最後に担当教官が話された「今日行なった体験をもっとやりたいなら、是非とも海上自衛隊に入るように」との言葉が心に響き、大学卒業後は「絶対に海上自衛隊に入隊する」といった明確な目標を定めることができた。しかしながら、まずは採用試験に受からないと自衛官としてのスタートラインに立つことはできない。残り少ない学生生活ではあるが、後悔しないよう勉学に努力を傾注することを、改めて心に誓った。

音大性が空自中央音楽隊を研修



合奏訓練を鑑賞する参加者

神奈川地方協力本部溝の口募集案内所（所長 倉橋 准陸尉）は、2月16日（木）、洗足学園音楽大学学生の航空自衛隊航空中央音楽隊における部隊研修を支援した。

当初、航空自衛隊の概要や空自の音楽要員になるための採用試験や入隊後の補職管理についてのブリーフィングを受け、学生たちは熱心に耳を傾けていた。施設見学では、防音設備の整った練習室の数の多さに、皆驚いていた。また、週末実施される演奏会の通し訓練を見学させていただき、音楽隊員の演奏技術の高さに、学生たちは圧倒されていた様子であった。最後には、各楽器担当者との懇談会も行われ、学生たちは積極的に質問するとともに、「かっこよかった」「入隊して是非一緒に演奏したい」との声が聞かれるなど、隊員との交流を楽しんでいた。

溝の口募集案内所は、「今後も、音楽隊への研修や定期演奏会等を有効に活用し、音楽要員志願者獲得に努めていく」としている。